

第41号

題字 西 春彦 著

○発行所 川辺高等学校東京同窓会

○発行日 平成 29 年 10 月 22 日

○編集発行人 小原東洋明

○印刷所 株式会社 盈進社 ☎03(3262)3471

第41回会 総 覧

新たな挑戦に向けて！ 小原新執行部発足

前週末までの天気予報とは相違して、雲一つない快晴となった平成二九年六月三日(土)、新宿ワシントンホテルで第四十一回川辺高等学校東京同窓会総会・懇親会が開催されました。

本総会には、大坪憲市本部同窓会会長、東郷孝仁校長先生、下園俊郎先生、恩師の柿本和義氏が、来賓としてご参加くださいました。前日は、役員有志との交流会が催され、母校の現状や課題などについて熱の



入った意見交換を行いました。

総会・懇親会の参加者数は、最終的に、来賓を含めて昨年とほぼ同数の百九十三名に達しました。

総会に先立って、福岡同窓会の事務局長も務められる、昭和四十九年卒の南谷洋至弁護士による「私の今ここ、自分 P A R T 2」と題された特別講演会が開催されました。開始早々に会場は満席となり、予備の椅子も足りず、やむなく立って聴く参加者も出るほどでした。

南谷弁護士は、司法試験に合格するまでのエピソードなどをウィットにとんだ語り口で紹介し、時折、会場からは笑い声も出ていました。

お話の中で、知覧で起こったいじめ自殺事件の弁護を担当されたときに、被告(加害者)側に立って弁護する姿勢を「鬼になってでも(事実)と向き合う」と説明されたのが、ともすればマスコミに影響されて、原告(被害者)の立場から見がちな身にとっては極めて印象的でした。

続いて総会会場において、母校から出席された下園俊郎先生によるミニコンサートが開かれました。十五

分という短い時間とは思えないほど充実したひと時となりました。

その後、大平会長を議長として総会の議事に移り、会務報告では、東京同窓会のホームページを新しく開設したこと、フェイスブックの開始などが紹介されました。次の会計報告、会計監査報告に続いて、大平会長、南谷副会長、川村副会長の退任と小原会長、森山、峯苦、松永、岡本の四氏を新たに副会長として選任する案を骨子とする役員改選の議案提出が行われ、承認されました。

続いて、小原新会長が挨拶に立ち、退任された役員に対して、これまでの業績に対する謝意を表すと、会場参加者からは盛大な拍手が送られました。その後、新会長の決意表明と会員への応援・協力をお願いに続き、新役員の紹介が行われました。

続く懇親会は、年度幹事である昭和四十九年卒の有馬正史さんと下園郁代さんの司会で始まり、大坪本部同窓会会長より、東京同窓会の協力・支援に対する感謝と、母校への支援をハード的な形から奨学金のよいうなソフト的な形へ移行する構想の紹介を含めたご挨拶がありました。

また、「ふるさと納税制度」を活用した、南九州市の高校への支援、二〇二〇年創立百二十周年記念事業

への積極的な支援も要請されました。続いて、東郷校長先生が、平成二十九年の大学合格者数など、母校の現況を紹介されたあと、東京同窓会四十周年を記念し、母校支援を目的とした寄付金目録が東郷校長先生に手渡されました。

その後、昭和三十二年卒の鱒坂悟郎先輩の音頭で、参加者が待ちかねていた乾杯を行った後、年次別に分かれたテーブルでの懇談に移りました。

いつもの刺身こんにゃく、つけ揚げが並び、ホテルの料理も運ばれ、用意のイモ焼酎も加わって、どのテーブルも一挙に盛り上がりました。宴たけなわにさしかかり、有志の女性陣が着物やハッピー姿で、テーブルの間を縫って「河内おとこ節」「炭坑節」「おはら節」などを踊り始めました。途中からは待ち構えていた男性陣も踊りの輪に加わり、会場は熱気の渦に包まれました。

懇親会の終盤には、新旧の校歌を会場全員で斉唱し、昭和三十四年卒の泊昭八郎先輩が音頭を取っての万歳三唱のあと、昭和四十一年卒の峯苦新副会長による閉会のあいさつをもって第四十一回東京同窓会総会・懇親会は終了しました。

(昭和四十一年卒 森山副会長記)



就任のご挨拶

東京同窓会長
昭和三十八年卒 小原 東洋明

会員各位にはご清祥のこととお慶び申し上げます。また平素は格別なご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

第四十一回総会懇親会は、去る六月三日、総勢百九十三名が集い、盛大に開催されました。ご同慶の至りに存じます。私、この総会に於いて会長職を拝命いたしました。もとより浅学菲才の身ではございますが、粉骨砕身して職務を全うして参ります。何卒、今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

当会会則には、その目的を「親睦と母校への貢献」と謳っています。

これまでも、懇親会の開催・会報誌発行等で、会員相互の親睦に努め、情報交換の場を提供して参りました。

加えて、別の視点から当会を俯瞰すると「期待される同窓会」の姿が浮かんできます。世代間交流、多種多様な同窓生との交流は、ビジネスにおける異業種交流そのものです。異業種交流会には「あつ！そうか」といった「何かを気付く」事や「自己変革」を期待して集まります。実に多種多様な集団である当会懇親会は「何かを気付く」「自己変革」を促す舞台そのものです。また古き友との会話は、懐かしい思い出と共に、熱く語り合った「夢」「目標」といった「原点」をもほろ苦くも

思い起こさせてくれます。

「期待される同窓会」とは、何かを気付く、原点に立ち返り、自己変革を呼び起こす。そんな自らを高めるプロセスのある同窓会なのではないでしょうか。当会懇親会にはその舞台が整っているのです。

団塊の世代が高校生であった頃の十八才人口は二百数十万人、今やその数は百二十万人弱となっています。当然のことながら高校は淘汰の時代に曝され、百十余年の歴史と伝統を誇る母校も例外ではありません。母校・PTA・本部同窓会一丸となって存続活動に取り組んでいる姿に頭の下がる思いです。母校あつての同窓会、当会もその一翼を担わなければなりません。

卒業生が母校の活躍に勇気を貰うのと同様に、卒業生の活躍は母校に希望と勇気を与えます。あたかも同じDNAを持った、遠く離れた二つの音叉が共鳴するかのように。音叉は共鳴箱を付けると共鳴がさらに増幅します。当会もこの共鳴箱の役割を果たし、母校と会員各位の活性化に貢献できればと願っています。

最後になりますが、母校川辺高等学校の発展と会員各位のご多幸を祈念し、就任のご挨拶と致します。



川辺高校、発展のため 皆様の絶大なるお力添えを！

同窓会会長
昭和四一年卒 大坪 憲市

我らが母校の鹿児島県立川辺高等学校は、明治三三年（西暦一九〇〇年）春、地域住民の絶大なる熱意で鹿児島県立第四中学校として創立されました。以来、一一七年の歴史と伝統を誇り、卒業生二万数百名を輩出してきました。

川辺高等学校東京同窓会は、本年六月の総会において、大平政弘会長より長年幹事長としてご貢献された小原東洋明新会長へのバトンタッチ、およびそれに伴う新役員の体制がスタートされました。

東京同窓会の皆さまには、いつも母校に対して一方ならぬご支援・ご協力をいただいておりますが、今後小原会長を中心に、川辺高等学校発展の為、お力添え下さいますよう伏してお願ひ申し上げます。

母校の現状ですが、今年九六名卒業中、国公立大に三三名（短大を含む）合格・医療系専門学校三三名・その他私立大学・職業能力大学等、ほとんどが希望する進路に進むこと

ができたことは、東郷校長先生の指導のもと、先生方の献身的努力のたまものであり、私たち同窓生も誇らしく思うところです。

部活では全校生徒の八〇%以上が部に所属しています。特になぎなた部は常に県下でトップクラスです。野球部・テニス部・バレー部・水泳部・音楽部・書道部・ESS部等もがんばっています。

平成二九年度は募集者数一二〇名に対し、九八名の入学者で、少子化現象の影響下、厳しい状況が続いておりますが、平成三〇年度の受験者数は、過去、最も少なく危機的状況にあります。

二〇二〇年四月には創立一二〇周年を迎えます。同窓会本部では、近いうちに実行委員会を立ち上げ、二〇周年事業や一〇年に一度の浄財のお願いなど検討いたします。

改めて、母校存続のために変わらぬお力添えを賜りますようお願い申し上げます。



「深化と進化」

川辺高等学校校長 東郷 孝仁

故郷川辺の夏は例年にも増して、

今年は暑いものでした。恒例の川辺祇園祭、花火大会で暑氣払いをされた方も多かったように思います。

また、八月十五日の終戦の日は、知覧平和スピーチコンテストに本校の二年生が出席し、落ち着いて平和の尊さを立派に訴えて聴衆を魅了していました。大変感心しました。

さて、東京同窓会の皆様にとつて今年の夏はどのようなものだったか。六月の総会では大変お世話になりました。有難うございました。東京同窓会の会報誌「神戈陵第四十一号」の発刊を祝し、一言御挨拶申し上げます。

今年、私が機会を捉えて生徒や職員に話していることは、「深化と進化」という言葉です。目の前にある様々な課題に対して、ひとつひとつこだわりの持つて、その学習やその職務を「深める」「進める」という視点から入っていくと呼びかけています。加えて職員には、「一工夫を効果的か、心に届ける」の三点を鑑

みるように話しています。

このような方針を踏まえて、今年は文化祭を初めて土曜日開催としました。多くの地域の方々が参観に來られ、大盛況でした。一年生の浅田真央さんを描いたモザイク壁画、二年生の地元の特産品を中心とするバザー、三年生の演劇やダンス、図書委員会等の各種委員会の発表や音楽・美術・書道等文化系クラブの発表、保護者の皆様による「母ちゃん食堂」等、例年以上に意欲的で活気にあふれていました。東京同窓会の会員の皆様も、どうぞお越しくださいます。母校は待っていますよ。また、校史資料室も整理し案内板等も整備しました。まだまだ不十分ではございますが、帰郷の際には、是非お立ち寄りください。

最後になりましたが、東京同窓会の皆様には、平素から母校の教育活動に深い御理解と多大な御支援を賜っておりますことに対し、厚く御礼申し上げます。併せて東京同窓会の益々の御発展を祈念し擲筆します。



「神戈陵第四十一号」に寄せて

川辺高等学校教諭(音楽担当) 下園 俊郎

今年度、人事異動で鹿児島県立川辺高等学校に赴任し約五カ月がたちました。前任校は、鹿児島県立喜界高等学校で商業科の担任を三年間受け持たせていただきました。様々な家庭環境で育つ生徒一人一人と向き合い、多くの困難をともに乗り越え、時にはともに涙し本当に多くのことを学ばせていただきました。

川辺には妻・娘と三人で参り、初めほどのような所かわからず戸惑いしましたが、親切な地域の方々のおかげで、すぐに川辺の生活に慣れることができました。

川辺高等学校ですが、まず生徒達の純朴さに感動しています。この生徒達と関わる事ができることに感激し、彼等を育んでいるこの地のす



ばらしさを日々感じています。また、同僚の先生方も教育に対してとても熱心で、日々先生方の御指導を拝見し勉強させていただいています。

本年六月には、川辺高等学校東京同窓会の総会・懇親会にも出席させていただきました。歴史と伝統のある川辺高校について少しは分かっていると思いましたが、実際同窓の先輩方と直接お会いしお話を伺って、全くわかっていないことに気が付きました。歴史と伝統を肌で感じ、川辺高校で指導できることの喜びと責任をより感じております。偉大・立派な先輩方に続き、歴史と伝統ある川辺高校を卒業する生徒を育むため、芸術という立場から小中学校・地域との連携をはかり、微力ではありますが日々努力していきたいと思

います。

(事務局)

「下園先生フルート演奏写真」
(下園先生は総会前にミニコンサートとして、素敵なフルート演奏と歌唱を御披露頂きました。)

川辺高校の思い出

恩師 柿本和義

加世田高校在学中から、川辺高校は一目置く学校であり、ライバルでもありました。在職三校目でした。私も若くて張り切っていました。ソフボール部の顧問として毎日暗くなるまで鍛えたり、夏の合宿では教室の板の間で、部員の為に寝ずの番をしたものです。

担当教科は国語でした。漢文の教科書の音読を全員に職員室でさせました。一人ひとりに接するよい機会でもあり、それぞれの個性能力も理解できて、真の教育に近づけたような気がします。



学校の近くの住宅には、生徒達がよく来てくれて、心配事や悩みを話してくれたり、入試に失敗したら、家に帰れないと泣いて来たりして、一緒にご飯を食べたこともありました。五校目六校目が受験指導中心であつたのに比べて、川辺では教育の本道に近づけたかと自己満足しています。これは生徒さん達がすばらしかったからだと思います。

伝統ある川辺高校の同窓会に二回も招待していただき感謝しております。ご出席の方々が多士済々で、全く感銘を受けました。お一人おひとりがご立派であるだけでなく、同窓生としてよくまとまっておられるということが、また素晴らしいと思えました。



会長退任にあたって

前会長 昭和三十四年卒 大平政弘

東京同窓会の皆様におかれましては、ご健勝のことと拝察申し上げます。東京同窓会はこの六月の総会も多数の方のご出席を頂き盛大に開催できました。会員、ご来賓、また運営にかかわった役員幹事の皆様に対し、厚く御礼申し上げます。

さて、私は今総会で二期四年の任期到来を機に、会長を退任させていただきます。

思い返しますと、昭和五十年室屋敷盛先輩の下で東京同窓会創立のお手伝いをさせて頂いたことが会とのかかわりの始まりでした。地方勤務

になつたために第一回の会には出席できず、また、その後の運営を手伝うこともありませんでしたが、副会長四年会長四年お世話になりました。

この四年間もいろいろなことがありました。総会は毎回二百名前後の会員が出席されて盛況でしたし、創立四十周年および記念誌の発行も無事了えることができました。会の財務は飛躍的に強化できました。幹事や評議員はさすが伝統校の卒業生だ

けに皆優秀で快活で、幹事会や評議員会など諸会合は、いつも楽しい会でした。母校へはクラブ活動へささやかながら協力を差し上げ、後輩が全国大会出場の際には応援団を派遣しました。これらは全て会員の皆さまの協力のおかげであります。

一方、この間に本田元会長、川口幹夫先輩はじめ多くの立派な先輩を喪いました。会員は高齢化し会員数も毎年減少しています。母校も入学志願者の減少に苦しんでいます。

東京同窓会はこのような状況の下で会員の親睦を図り、母校に物心両面の支援をしなければなりません。小原会長を中心に幹事の皆さんぜひ頑張ってください。

最後に、会員の皆様と事務局の進社下園典子社長に感謝し、東京同窓会の一層の発展を祈念申し上げます。本当にありがとうございました。





東京同窓会の伝統

昭和三十六年卒 南谷 巨英

この度、後期高齢者となり健康上の理由もあって、副会長を退任することになりました。

退職してほっと一息していた時、当時の鰹坂副会長から役員をという電話を受けて以来、会計監事・副会長と一〇年間務めさせてもらいました。

この間優れた先輩後輩の形骸に接することができて誠に有難く感謝するのみであります。先日同級生だった女性から「高校では我々は戦友だったはずではないか!」という言葉聞きはつとしたが、神戈陵の下で学んだ同窓生みんな何とも言えない強いきずなで結ばれているような気がしてなりません。また役員という後ろ盾があったおかげで、五〇年近く疎遠だった母校川辺高校との距離が大いに縮まりました。そして、卒業式など母校を訪ねる機会も増え、現地同窓会、ふるさと会への参加などでふるさとを思いやる気持ちもますます強くなりました。

この一〇年間で残念ながら少子化の影響もあり、母校は募集定員が五

クラス二〇〇名から三クラス一二〇名まで減り、存亡の危機が一層強く叫ばれるようになりました。私事ながら、川辺高校は父・叔父・叔母・兄弟五人が学び、青春の血をたぎらせた学び舎だけに、母校の盛衰は他人事ではありません。

遠く関東の地に在って、我が東京同窓会は歴代会長・副会長はもとより、特に近年は幹事長の卓越した縁の下の働きで、総会・会報・母校支援と、他地区同窓会・近隣他高同窓会からも羨ましがられるほどの充実した活動ぶりとなっております。

今、母校が三クラスを堅持しながら、山椒は小粒でも辛いの実績を示しつつある中で、我が東京同窓会も厳しいですが、伝統を堅持し新しい歴史を築いていってほしいと切に願う次第であります。



東京同窓会に感謝

昭和三十六年卒 川村 敦代

東京同窓会副会長という役職について六年。この度、役員を退任することになりました。

これまで会員の皆様、役員の皆様いろいろな助けられ、今日を迎えました。本当にありがとうございます。すべての皆様に感謝です。

二十年前でしようか、五十才代の頃です。バレーボールと私という題で、バレーボールは我が青春と神戈陵に載せていただいた頃は、コートを走り廻り、ダッシュやジャンプをこなしていたのに、七十五才になった今では、東京での役員会に出席するのも、少し疲れを感じるようになってしまいました。

六年間、たいした事も出来ず退任しますが、次の役員の方達が、これから先、頑張っていられる事を考えた時、自分に出来る事を見つけて何かしなければ……と。年相応の運動に切りかえ、地域のボランティア活動に参加し、社会に恩返しをしたいと思うようになりました。

そして、毎年の同窓会を楽しみに

いつでも参加できるように、健康に気をつけて過ごしたいと思います。本当に有難うございました。
東京同窓会のますますの御発展をお祈りいたします。



「私の今、**いっ**、自分、Part II」という演題は、「今、ここ、自分の合計が人生」だという相田みつをさんの言葉に感動し拝借したものです。同じ演題で、本校開校百十周年記念講演でお話をさせて戴きましたので、Part IIと致しました。素晴らしい後輩や、大先輩方に、私がお話できるとすれば、それは、自らの人生をさらけ出すことしかないと思ったからです。

私を司法試験浪人から弁護士にしてくれた思い出の一言は、パナソニックの人事部長さんから口頭試験の前に戴いた「はい。すみません。有り難うございます。これだけで十分バイ！」という言葉でした。この三つの言葉を呪文のように唱えようと不思議に心が落ち着き、難関の口頭試験も乗り切ることができました。どんなときも、「はい」という素直さで向き合うこと、過ちに気づいたら、即、「すみません」という謙虚さを忘れないこと、そして、どんなときも、「有り難うございます」と感謝することの大切さを教わりました。この簡単な三つの言葉が、司法試験合格証よりも、もっと貴重な人生の運転免許証になりました。

平成元年に兄南谷知成弁護士の事務所に就職し、弁護士生活をスタートさせ、平成十一年に独立して現在に至りますが、その間、多くの人と事件に出会いました。思い出に残る事件は、依頼人の皆様の数だけありますが、その中で、基本的にマスコミに取り上げられた事件をお話の題材にすることにしました。すでに公知の事実になっているので、守秘義務を離れ、すこし突っ込んで言及できるからです。

特別講演「私の今、**いっ**、自分、Part II」

昭和四十九年卒 弁護士 南谷 洋至

が肺がんで死亡したことは、保全業務が原因とはいえないとして労災不支給とした国を相手に、その遺族の奥さんが勝った裁判は、兄にとっても私にとっても、生涯忘れられない裁判です。先輩弁護士からは、「証拠が足りないから負けるもんね。」と言われた裁判でした。兄から、専従でいいから最終準備書面を書いてくれと言われた際、負け戦を押しつけられたと勝手に腐っていました。ある日、膨大な訴訟資料の中で、奥

①日本で最初に裁判となったセクハラ事件では、日本で最初に女性をたてた弁護士（負けた弁護士）になりましたが、企業や、大学等からの講師依頼が、未だにあるから不思議です。兄は、「おなごに逆らうなが家訓ですもんね。」と言ってマスコミを煙に巻いておりました。アグネスチャンとの対談企画も断りました。いつまでも女性に弱いマザコン南谷兄弟です。

②三菱化成黒崎工場の保全課従業員さん



なかつたときに、高次脳機能障害に光をあてて、性格の変化も損害であると認めた画期的な判決も戴きました。

④ある少年事件では、「悪いことするな。反省しなさい。」などという教科書的な言葉が一切無力であることとを教わりました。ある日、玄関で靴をそろえている少年を見て、教育熱心な母親が、衝撃を受けました。何時までも子どもと思っていた少年のその姿に、「大人」を見たのです。母親が、自分の子どもとの接し方に問題があったことに気付いた瞬間で

した。

⑤ある強盗致傷事件で、重傷の被害者に被告人の情状証人として法廷で証言してもらえたという信じられない出来事もありました。その被害者は、星の王子様でも有名なサンテグジュペリの小説「人間の土地」を薬物中毒の被告人に差し入れるなどして、神の手を差し伸べられました。

⑥日本で最初の教師によるいじめ事件については、「でっち上げ」という本が出ていますので、ご一読戴ければ有り難いということで講演では割愛しました。その本には出ていませんが、事件の十年後に、依頼人に対する停職処分が認められ、「殺人教師」とまで言われた依頼人の無罪が確定しました。長い闘いの中で、どこまでも事実謙虚であれという教訓を学びました。フジテレビのビートたけしの番組からのオファーもありましたが、事実が歪むのでお断りしました。

⑦知覧いじめ自殺事件では、家庭裁判所で最も重い処分を受けた少年の代理人になりました。彼は、他の少年らの口裏合わせの犠牲になっており、他の少年らの依頼した鹿児島市内の弁護士には依頼できず、福岡市

の私に頼むことになったのです。自殺した少年のご両親が、いじめた同級生と知覧町を訴えた事件で、途中いじめた側の少年の父親が自殺するなど悲劇が重なりました。判決では、いじめた側の損害賠償責任が認められました。裁判所は、一方で、「四割の過失相殺」を認めました。親の側にも四割の責任があるとしたので、講演では、この四割の根拠となつた衝撃的事実につき、少し詳しくお話をさせて戴きましたが、とても本稿では要約出来ないのが残念です。マスコミは、業界内の不文律に従い、「親の責任」につき、一言も報道しませんでした。

私は、尊敬する兄南谷知成弁護士から、生涯に亘って導きの印となる大切な言葉を教わりました。それは、「心に残る弁護士になれ！」という言葉です。何をもって憶えられたいかは、人それぞれでしょうが、この言葉ほど、インパクトのある言葉はありません。私は、企業研修で話すときには、必ず、「心に残る上司（部下、社長）になつて下さい！」と強く訴えることにしています。この言葉さえ感得すれば、セクハラ、パワハラなど起こりようがないと信じて

います。

私の自慢の兄は、「につつき相手があつたからこそ、あなたとのかけがえないご縁が出来た」と言つては、いつのまにか、依頼人を、相手を許すという高みに導くことのできる達人であり、何よりも、愛すべき川辺高校の先輩です。

東京同窓会で、皆様にお会いできて、本当によかったです。

皆様の暖かいまなごしは、これから生涯に亘り心の糧になることは間違ひありません。心から感謝申し上げます。

（本稿は六月三日、第四十一回総会に於いて実施された特別講演の要旨である）



陵友だより

語り部

昭和二十三年卒
(美術部員)

田口 精一

・・・つまる処、芸術に完成は無い。死ぬまで求め続けるしかない。偽物は通用しない。人生をしつかり生きて来られたお客様を甘く見ちゃアいけません・・・と。言葉がない。真顔で頷いていらつしやる方々を前に私は天を仰いだ。

「パリ祭に伊豆へ来て、僕達の仲間に滝沢（修）さんのお話を・・・」と声を掛けられたのが去年の「ヒロシマ」語り部を始めたという旧友との二八年ぶりの再会を経て迎えた前夜祭の会場。予てから敬愛する中西繁画伯の一言に乗って仕舞つた結果がこれだ、自業自得というしかない。相手が違う、いま、話さねばならないのは、わが劇団の仲間たちではないか！

「お前、若い連中が何考えてるか分かるか？」旅先で突然問われた。沈黙。「苦勞するぞ。ヘッ、ざまア見ろ」嬉しそうに笑った。都会には真の観客はいないと宣言、一座を立

ち上げて地方巡業を始めた宇野（重吉）さんの想いが、いま、痛い程分かる。

「言葉には必ず出自が有る、理由が。生まれて来る動機が必ずあるんだ。粗末に扱うな。愛する恋人人だと思ってみろ。お前達はなんて冷たいんだ。全身で受け止め全身で応えろ」そして「本当か嘘か、そんなの聞いてりやア分かる」と目を閉じた。

今年も、盟友下野敏見兄の労作『鹿児島ふるさとの昔話』が送られて来た、三巻目である。柳田国男賞の第一回受賞作の中から永年にわたり蒐集して来た古老たちの昔話の録音テープを起し活字にして呉れているのだ。頭が下がる。あれ程苦勞した普通語同化教育がTVの普及によって見事に解決したら、今度は「お国訛り」消滅の危機に晒されている。宇野さんが愛した「温かい会話」は効率・効果第一の情報文化にとつぷり浸かって今では厄介者扱いだ。

来年の大河ドラマは『西郷どん』との事。方言以上に役づくりの荒廢が一番恐ろしい。「嘘の兵隊を見せられるのは拷問に比しい」と抗議を受けたのは何年前だろう。芸術に営業が介入し当たり前になり、省略、

不要とほとんど軽量化してゆく。嘆いた処で解決は無い。体験者による語り部に今年から参入「兵隊ばなし」を始めた。戦中派の生き残り『我々諸君』のメッセージとして、元教師の大野耕一兄の遺稿二首を紹介してペンを置く。

なまなまの戦語りを噛みつぶぞ
世紀名の梨甘からぬかな
乏しきをひた悩みけむ無口なる
子が納めにしその銭がなる

「偶然は必然か」

昭和三十年卒 井料 和彦

人生を長くやっていると、いろいろ面白いことや不可解な事があるものである。私にはどういふ訳か偶然の出来事が非常に多い様な気がしている。何か超能力にも似た特殊な能力が有るのかと思いたくなるのです。或いは「テレパシー」(カタカナ語新辞典によると精神官能「頭の中で考えたこと、心に念じたことが遠くの人に伝達されること」とある)が強いのかも知れない。

本田武郎氏は当方の川辺高校時代のクラスメイトで、何年前の同窓会長で二七年卒の故本田雄郎さんの弟君です。現在、鹿児島市の始良市に

お住まいである。

以前、事情が有って当方、鹿児島市の弟妹達と空港近くの始良市にある「サンピアあいら」と言う厚生年金福祉センターに宿泊したことがある。温泉である。

その近くに住んでいると思われた本田氏に電話でもして、旧交をあたためようと考えて、東京を出るときから楽しみにして出かけた。入浴後ロビーでいつ電話をしようか等漠然と考えながら、くつろいでいたのです。その私の少し前に後ろ向きに座って、何かを読んでいるらしい白髪の老人が妙に気になったので近づいてみたら、何と本田武郎氏ではないか。予め連絡していた訳でもないのに偶然出会ったのです。：誌面に限り有って全部を紹介できないが、まだ他にも覚えているだけで、七、八件あります。

スイスの心理学者ユンクが「共時性」(河合隼雄氏の訳語)と称して、同じような偶然の出来事について「時間的に意味のある偶然の一致」と言っている。良く聞く「虫の知らせ」や「うわさをすれば影云々」等もこの類だろう。この「意味のある

偶然」を当方、科学的には説明つかないが、何か目に見えない糸で結ばれている必然ではないかと解釈しているのだが。

南米航路の思い出

昭和三十九年卒 椎原健郎

私は母校を卒業して当時農林省所管の水産大学校に入り、いわゆる船乗りになりました。配属されたのは、成績も思わしくない私のことですから、当時花形のニューヨーク航路でなく、中南米西海岸航路の船でした。同じ南米でもブラジル、アルゼンチンへ向かう東海岸航路は移民船、見本市船など話題性がありました。こちらにはアフリカ航路と同様で、エルサルバドル等、舌をかむ様な名前の国ばかりで、田舎のドサ回りの3カ月もかかる長距離航路でした。

ハワイ経由で南米に向かうことがありました。伊豆大島の南から真東に進むと、一週間ほどで水平線にハワイ諸島が現れます。常夏の島が近づくとつれテンションも一段と上がりました。航海が長いのでサンフランシスコで給油をします。同僚と街に出て、信号待ちの若い女性に「ハアアイ」と手を振れば、ニッコリと



「ハアアイ」と返してくれました。バーでビールを飲んでいたとき、他の客が何本かプレゼントしてくれました。私達も悪いと思いい少し多めにお返しをしたら、その倍のお返しが来ました。お腹パンパンでしたが目を白黒させて全部飲んで船に帰りました。良い時代のアメリカです。

陸に近いところを走るので鳥が船に寄ってきます。コンドルが空高く舞い、ペリカンが大きな翼を広げて船と並んで飛ぶ姿はすごかった。チ

リで代理店の人にお土産に、グラビ

アアイドルのカレンダーを渡すと、なかなか受け取らないので理由を聞くと、申し訳なさそうに「きれいだか胸が小さすぎる」と言われました。チリはスペイン系のグラマーな女性が多いのです。私はなるほど納得しました。

同窓会誌にはどうかという話ですが、若い45年以上前の私の思い出です。

矢櫃橋のホタル

昭和四一年卒 井尻 啓子

知覧上郡に麓川に架かる古い歪な「めがね橋」がある。石橋である。矢櫃橋（やびつばし）と、地元の人はそのように呼んでいる。

武家屋敷通りにある祖父母の家からもこの橋は遠くなく、中学高校をこの家で過ごした私は、ひとりでもよくここにきて遊んだ記憶がある。

春になると川に入りメダカと遊び、初夏には日暮時にもなると、ホタルが飛び交う光景に出合うのである。苔むしたこの橋のたもとに、ホタルの小さな群れが動き始める。すっかり暮れた暗やみの中に飛ぶホタルの灯りは十五・六才の私には、やさし

く追い続けた楽しい時間でもあった。当時、夏の暑さを凌ぐため、夜は両戸も障子も開けっ放し、座敷に蚊帳を吊り眠りについた。

ある夜のこと、電気を消して静かになった時、家の中に一匹のホタルが入ってきた。祖父は「ホタルをそつと蚊帳の中に入れてあげなさい」と言った。「自由に飛ばしてやりなさい」とも言った。そのホタルを祖父は見守っているかのように見えた。

学徒出陣として見送った息子のことを思ったか……。矢櫃橋のホタルの群れから、そつと立ち寄ってくれたのかもしれないと思つた。半世紀を、とうに過ぎた今でも、その時のホタルの放つ灯を鮮明に覚えている。

矢櫃橋を教えてくれたのも祖父である。小さくて目立たない石橋だが、知覧城の出城のあったところで人馬を通す大切な役割があり、敵の侵入を防ぐ微妙な位置に架けられているとも聞いている。

武家屋敷通りに続く矢櫃橋周辺は、今では綺麗な公園となり、里帰りに訪ねてみたい思い出深いところである。

きょううときょういく

昭和四五年卒 有 蘭 茂 矢

一五年ほど前だろうか、表題の平仮名十一文字だけがメールで送られてきた。定年退職後の第二の人生を考えた五〇歳頃であり、自分への早い送辞と勝手に受け留め勝手に解釈した。まず、「教養と教育」は面白くない。第二の人生の生き様に合致させるべく、「きょう用と今日行く」とした。つまり、「きょう用事を作り、きょう出掛けよう」である。定年退職して毎日が日曜日になるとフットワークが悪くなる。ちよつとした事もおつくうになり、ますます退屈になる。暇を持て余しているくせに外出も面倒になる。まさに途方も無く仙人に遠い私には「小人閑居して不善をなす」の戒めと思つた。

そこで、自身の課題として、退職二年ほど前から、ウォーキング慣らしを始めた。それだけでは飽きるだろうと、これまた本格的に一眼レフカメラも始めた。さらに不足すると思ひ、友人へのメールに俳句を添えるようにした。推敲せずに一〜二分で詠む即興の駄句である。

定年退職本番後、ウォーキングを毎日一〇kmにした。約半年で飽きてくるので、いよいよカメラ携帯で色々散策して写真撮りまくった。カメラが重く、ウォーキングでなく散歩になった分、長時間になったが。ところが、半年も経つと飽きた。今度は本格的にサイクリングを始めた。毎日二〇kmくらいから始め、半年後くらいには、調子の良い日は一日で一〇〇kmくらいを走った。最近は、ウォーキングとサイクリングを交互にしている。カメラは、軽い小さいデジカメ(スマホやコンパクトカメラよりは少し優秀なやつ)にした。駄句は誰かれ構わずメールに付けるようにしている。メールは多く送付するので駄句も相当数である。

また飽きてきて異なる事を始めるだろうが、きょうようときょうういは実践されている。

NHKのど自慢出場

昭和四十六年卒 峯 元 政 公

NHKのど自慢が、平成二九年七月九日南九州市川辺文化会館において、開催されることとなり、同級生の塗木実雄君から「同級生で『高校三年生』を歌って、冥途の土産にの



ど自慢に出よう。」との誘いがあり、冥途の土産にはまだ早いとは思いましたが、同級生と一緒に出るのだしたらと承諾したのが始まりでした。「高校三年生」を歌って特別賞を勝ち取る作戦は、恩師にも仲間に入っていたいただき卒業後、半世紀近くたった現在「誰が恩師でしょう?」と全員の視聴者に問いかける事でした。その恩師の役を引き受けてくださっ

た方は、東京同窓会総会第三七・三八回に出席してくださった馬渡武弘先生でした。先生は、私達と違い髪もふさふさしており若々しくみられるので、誰が恩師で生徒かわからないから、きつとうまくいくだろうと思いました。

衣装の学生服は現役の川辺高校野球部員から借り、セーラー服は野球部員の姉妹から借りました。ただ帽子は、現在被る規則にはなっておらず現役から借りることはできなかったのですが、私の実家にあつた帽子を見本に、通販業者に製作を依頼しました。私の帽子を半世紀近く保管してくれた親に感謝です。

のど自慢には七百六四通の応募があり、予選会に出場できる二百五〇組に選ばれてから七月八日の予選会までの二週間は、予選会・本番で使用する川辺文化会館での十人整列練習、イントロで踊るフォークダンスの練習、生バンド・カラオケに合わせたの練習と明けても暮れても「高校三年生」の歌の猛特訓で、声がかわれてしまいました。

予選会当日の天気は朝から豪雨でしたが、一一時会館入場にもかかわらず、一〇時前には観覧希望者が列

を作って待っていました。予選会の出番は二百五〇組中八三番目で、本番と同じ生バンドによる演奏でした。出来栄は、六五歳の男女が高校三年生に戻り、若々しく笑顔で練習通りうまく歌えたと思えました。

一七時四〇分からの予選通過発表の手順は、司会者が一番から順番に番号を読み上げることとなり、八三番を飛び越えて番号を読み上げないようにと、八三番・八三番と念仏を唱えていたところ、「八三番」と読み上げられたときの喜びようは忘れられません。十人全員椅子から立ち上がったのガッツポーズで、その姿はまさに一八歳に見えたことでしょう。

本番は、テレビで放映されたとおり司会者の小田切千さんが、「四六年卒川辺高校の同級生」と紹介していただき、馬渡先生が「川辺高校の絆」とインタビューで答え、川辺高校の名が全国に発せられました。後日、知人からのメールでは、結果は二つ鐘だったけど頭の光り輝きは合格だったと、お褒め?の言葉をいただきました。

先生・同級生とお互いの健闘を称え、十年後またこのメンバーで挑戦

しよう、それまで元気でいようと厚く握手を交わし、思い出の詰まったのど自慢が終わりました。

「歌うことは生きる事！」

昭和五三年卒 小林美知代

早いもので高校を卒業して四十年になります。過日は、初めて「川辺高等学校同窓会」に出席し、諸先輩方、後輩の方々と歓談し、各地で活躍されているお姿に嬉しさと共に感慨深いものがありました。

私事ですが、故郷には父八十八歳、母八十四歳が居り、年に二度程度帰省してありますが有難い事にとても元気です。この両親の影響もあり、幼い頃から歌が大好きでした。中学、高校とバンドを組みヴォーカルで歌っていた、それくらいの音楽経験しかありません。

そんな私が四十歳も過ぎた子育て真只中に突然歌うことをスタートさせました。それは子供達の送り迎えに明け暮れているある日、心の声なのか天の声なのか「このままじゃ死ねな〜い！」という声が聞こえたのです。その時出てきたのが幼い頃から大好きだった「歌うこと」でした。レッスンに通い、「MINA」とい

う名でライブ活動を続けるうち、自分で作詞作曲も手掛けるようになりました。

三年前には「愛のある場所」というオジリナルCDも発売し、ジャズも歌い始めました。まさかこんな事になるとは夢にも思っていないでした。「歌いたい！」という思いしかありませんでしたから。始める前は勿論葛藤もありました。「もう若くないし」「歌の上手い人は沢山いるし」「自信もない」「それでもライブを観た人に「エネルギーもらえた!」「明日も頑張ろうと思えた!」と言ってもらい、これまで続けてこられました。

音楽を通して私が気づいた事は、今ある全て、周りの人達に感謝し、一步を踏み出す、という事です。けっして全国区で売れているわけではありませんが、歌える事が有難く楽しく、人生に彩りを添える事が出来ています。

大好きな事を人生に取り入れ、皆が気分良く暮らしていく、そんな日常を過ごして行きたいとおもっています。

出会いと故郷の温かさに感謝

平成二一年卒 有木寛貴

私が東京で生活を始めてから約一年半が経過しました。鹿児島で生まれ、川辺高校を卒業し、大学も就職も鹿児島。仕事の都合で東京に来たとはいえ、田舎暮らししか知らず、東京に親戚や友人も少ない私にとっては、期待よりも不安の方が大きかったことをよく覚えています。

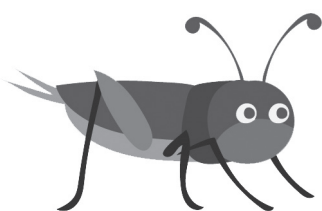
現在、私は鹿児島島の食材をPRするため、アンテナショップ(レストラン)にてホールを担当し、サービスマンに従事しています。事務所です。

パソコンサンドを叩いていた鹿児島にいる頃の業務内容とは大きく変わり、また、それに加え、環境や生活リズムといった多くの変化に付いて行くのに精一杯の一年半だったと思います。

ただ、その多くの変化が私に新たな縁をもたらしてくれました。サービスマンという仕事は、人とふれあう機会が多くあり、私のいるお店には鹿児島にゆかりのあるお客様も多くいらっしやいます。今年初めて東京同窓会に参加させて頂きましたが、そのきっかけもお客様としていらっ

しゃった川辺高校の卒業生の方からのお誘いでした。同窓会では、先輩方が温かく迎えて下さり、意外なつながりも知ることができました。また、そのつながりがきっかけとなり、新たな交友関係も少しずつ広がっています。

故郷の方とのつながりはとても心強く感じられ、お話をすれば温かさを強く感じる事ができます。そのきっかけを作って頂いたこと、また、一つ一つの出会いに感謝し、「縁」や「故郷」というものを大切にこれからの東京での生活を送っていけたらと思います。





前橋 竹之 (昭和二五年卒)

- 一. 夕暮れの木戸に子を呼ぶ声涼し
- 二. 八月の空穢すまじ学徒の碑
- 三. 売れ残る仏頂面の南瓜かな
- 四. 語り継ぐ人みな老いて醉芙蓉
- 五. セロハンに包む花束秋澄めり

大平 政弘 (昭和三四年卒)

- 一. 新茶汲む知覧の朝の茜雲
- 二. 高射砲在りし丘なり大夕焼
- 三. 故郷や螢と酒と喜寿の友
- 四. 練習機もう飛ばぬ空赤蜻蛉
- 五. 母宛多き特攻遺書や一葉散る

南谷 巨英 (昭和三六年卒)

- 一. 梅雨晴れ間ボンベ背負ひて退院す
- 二. 春愁や各駅電車に揺られゆく
- 三. 朝体操寒満月の見守れり
- 四. 秋深し杖を頼りに摩崖仏
- 五. 人、犬もみんな小走り寒の入り

島野 修一 (昭和三六年卒)

- 一. 春一番上総台地は舞い上がる
- 二. 短か夜の寝つかれぬまま旅の宿
- 三. 千年の時を刻んで古代蓮
- 四. 灼熱の午後の校庭かげろう立つ
- 五. 華やいで夜空にとどろく大花火

森山 昭利 (昭和四一年卒)

- 一. 三日月や冷たき空に星を斬る
- 二. 咲く花に酔うていざよう月おぼろ
- 三. 菜の花や月はつましく雲の陰
- 四. 新月に生命を点す螢あり
- 五. 縁に出て満月を酌む小盃

原口 泰広 (昭和四五年卒)

- 一. 長兄^{あにい}逝去^{いき}て三年となりぬ梅の花
- 二. 紫陽花の濡れて優^{いろ}しき花の彩

椎原 直子 (昭和四八年卒)

- 一. 散る音も趣なりと夏椿
- 二. うす墨を重ね暮れゆき虫の鳴く

神戈陵 俳壇・歌壇



松永 郁代 (昭和四〇年卒)

- 一. 胸躍る祇園まつりやふるさとの
あのにぎわいは今も続けしか
- 二. 勝ち抜いてやつとつかんだ甲子園
崩れし姿我もらい泣く
- 三. 昨今や肌の感覚めまぐるし
真夏か梅雨か季節がよめぬ
- 一. 桜雨この世のすべて洗い流し
薄墨色に染まりし杜よ
- 二. 君と打つ花瀬崎の鐘の響き
海原こえて誰が胸に届く
- 三. 急ぐ朝ふと見上げれば青々と
葉音の上に光の音符
- 四. 竹林の風が奏でるハーモニ
時を忘れし朝の台所

橋本 起世子 (昭和四一年卒)

(日常詠)

- 一. 真理ちゃんの大きなお腹の赤ちゃんを
〃〃真理ちゃん〃〃と呼ぶ三が日
- 二. 孫と摘む白詰草を繋ぎいく 花冠は母に習いき
(故郷の短歌)
- 一. 綿あめの割り箸に残る甘味のような
麦ぐみ食べし麦秋の頃
- 二. 黒ジヨカに焼酎温める雨の夕べ
故郷は今芋苗植えるころか
- 一. 年の瀬に花買う妻の背中^{せな}をみて
ありしき母の背中に似てかも
- 一. 遠花火思いをはせし賑わいに
君待ちし日の川面の揺らぎ

田中 さよ子 (昭和四一年卒)

原口 泰広 (昭和四五年卒)

椎原 直子 (昭和四八年卒)



第四一回 川辺高等学校東京同窓会 年度幹事報告

「司会」を務めて

昭和四十九年卒 有馬 正史

今年、私にとって平成一九年度の幹事拝命以来、十年が経過しての再度の幹事拝命の年でした。そして、任されたのが10年前と同じく「司会」でした。

今回は、私と同期の下園（旧姓蔵元）郁代さんの二人が総合司会を拝命しました。下園さんの高校時代から変わらぬ明るさに、気持ちを落ち着けることができました。

司会最初の特別講演講師は、同期の級友であった弁護士の南谷洋至先生（舞台裏で「君」と呼ぶか「先生」と呼ぶか相談の結果、同窓会として招いたということ）で「先生」と呼ぶことに）。

これまで取り組んできた重大且つ深刻な事件の難解な人間模様を紐解く弁護士業について話す南谷先生の参加者の共感を得る軽妙で分かりやすい話しぶりに、さすがは「敏腕弁護士」と思いながら、同期の活躍にこちらも頑張らねばと思つた次第です。

同窓会年度幹事と舞台裏

昭和四十九年卒 藏 元 泰 洋

その後は、川辺高校に今年度鹿児島県立喜界高校から着任された下園俊郎先生（音楽科）のミニコンサート。司会冥利に尽きるとはこのことかと思つたのは、参加者の皆さんが演奏を聴く前に、下園先生をご紹介するための事前取材を行おうと先生を別会場にお尋ねするとりハーサルの真つ最中で、下園先生の美しい音色のフルート演奏、誠に澄んだハイバリトンの歌声を目前で拝聴できたことです。言うまでもなく、下園先生のコンサートは万雷の拍手喝采のうちを終了しました。

その後は、肅々と総会、懇親会の閉会の挨拶まで、会の盛り上がりや気にながらも、刻々と過ぎる時間にプログラムが滞ることのないよう2人で司会を努めました。参加の皆様が旧友と語らっている笑顔を見ていると、もう少しこの楽しい宴の時間を延ばしてもよいのではと心の中で申し訳なく思いながら、「閉会」を叫んでいました。

本部役員の方々の総会資料・名札・リボン：もろもろの備品の段ボールを持ち寄り、ワシントンホテル九時集合で始まりました。当日準備は、年度幹事の昭和三十九年・四九年卒のメンバーで行いました。分担作業においての最終確認、細部最終打ち合わせを行い総会に臨みました。

受付係は十一人での対応、十年前の来場者ピーク時はてんやわんやのごった返し（受付そっちのけで「さひかぶり」「おまんさーだいけ?」）今回はなぜか一様に穏やかに進みました。しかしながら氏名確認・会費の受理・資料、名札の配布・会場案内（単純作業と言え慣れぬ作業、電卓片手に人数×金額〃合計「おちよつか?」の言葉が何度も聞こえました。はたまた卒業年度をお忘れの大先輩も一寸手間取りましたが氏名でやっど確認ができ、途中『てげでげでよかたつど』のご指示を頂き

ました。真面目にいたしました。本部役員の方と金額合わせを行い最終支払いまで金庫番は責任重大でした。司会者・進行係は分秒刻みの予定表に合わせて、会長挨拶から乾杯音頭まで時計とにらめっこ（この間、飲まず食わず）。諸先輩に対しても『もつと短く：』目の合図と『あと一分で』のカードを見せながら定刻よりわずか一分三十秒オバーでの乾杯となりました。万歳三唱のあと関係員様より『今までで、一番よかつたど』とお褒めの言葉を頂きました。

この日の為に毎年一年前から何回も何回も打ち合わせに・準備・確認・書類発送：汗をかかれました役員の皆様にも、又、当日は役目の為食事も程々にされた方々に深く感謝いたします。皆様とともに御礼申し上げます。

皆様の御尽力により、おかげをもちまして微力ながら四十九年卒がお役にたてて嬉しく思います。

母校だより

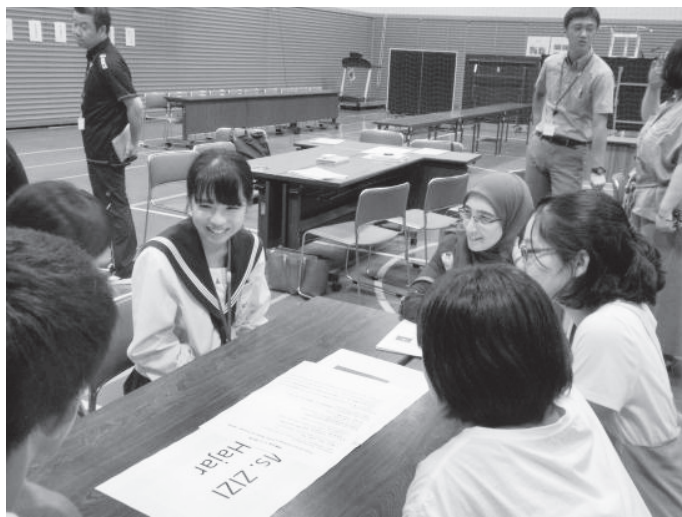
学校の様子

同窓会係 渡辺裕介

夏休みの川辺高校についてお知らせいたします。夏休みは全学年で補習が行われ、生徒は真剣に学業に励み、特に三年生は進路実現に向けて朝早くから夜遅くまで一生涯学習に取り組みました。なかには、盆休みも返上で特別補講を受けたり、尚

学舎で自習をしたりする姿も見られました。

生徒にとって夏休みとは学習だけでなく、進路に向けてじっくり考えられる時期です。また、一・二年生は将来の進路に向けてさまざまな経験をすることができ、補習期間中には各大学から教授を招いて出前授業をしていただきました。生徒は大学で学ぶ学問を実感し、興味津々で受講していました。補習



JICAの研修プログラム

今年も一年生のうちから大学等のオープンキャンパスに参加する姿が多く見られました。他にもさまざまな地域行事のボランティアや、県教委主催の「高校生イングリッシュトレーニングキャンプ」・高文連主催の「Summer Challenge」・JICAの研修プログラムや、二年生は県教委主催で県内の二年生を対象に行われる「グレイドアップゼミ」に参加しました。普段の学校生活では経験できないこ



イングリッシュトレーニングキャンプ

とをたくさん吸収して、今後の自分の進路実現の材料として生かして頂けることと思います。このように、生徒は自分の進路を見据えて、さまざまな校外活動にも積極的に取り組んでいます。

本校では例年、夏季休業中に中学生一日体験入学を二度開催していますが、今年も中学生・保護者がたくさん参加してくれました。当日は生徒会が中心となって学校紹介やスタンプラリーなどを行いました。その中で、一年生に中学生の前で高校生活について話をしてもらいました。



中学生一日入学

高校生活が充実していて、川辺高校を選んで良かったという一年生の話を聞いて、中学生の表情も明るくなりました。そして、中学生はその後も体験授業や部活動見学にも参加し、楽しんで体験してくれました。

二期は始まってすぐに、体育祭があります。そして、三年生はそれぞれの進路実現に向けて、本格的に受験シーズンに突入します。職員一同、生徒の進路実現に向かって精一杯の指導を行いますので、今後とも母校・後輩へのご支援をよろしくお願いたします。

進路状況

二〇一七年の卒業生は頑張つて多くの皆さんが希望校に進学できています。

ここ数年間、たとえば国公立の合格者数も右肩上がりで推移しています。



<国公立大>

鹿児島大	3	山口大	3
鹿屋体育大	1	高知大	1
熊本大	1	長崎県立大	1
長崎大	1	宮崎県立看護大	1
宮崎大	2	名桜大	5
琉球大	1	山口県立大	1
茨城大	2	高知県立大	1
静岡大	2		

<私立大 他>

東海大	2	近畿大	1
福岡大	3	酪農学園大	1
私立大	他29		
医療系専門学校	29		
(鹿児島慰労センター附属看護学校2含む)			



生徒のみなさんの活躍は校舎の垂れ幕でアピールしています！



<高校の様子を見て:事務局>

学校に伺えばみなさんしっかりとしてさわやかな挨拶をしてとても印象がいいです。

進学もみなさん頑張っていますね。文武両道！体育祭も9月9日(土)秋の好天の中、行われました。卒業生の皆様も、体育祭あるいは文化祭での思い出もあるのでないでしょうか？ 母校川辺高校で学んでいる(そしてこれから入学してくる)生徒さんの成長、伸びに期待したいですね！

部活動もいきいきと

体育会系、文科系とも、みんないきいと活動しています。

次ページに昨年二十八年度の活動結果を載せました。みんなの努力の結果ですね。今年度二十九年度もすでに各部の活動が始まりいい結果を出しているようですね。詳しくは川辺高校のホームページとブログをご覧くださいと高校の様子がよく伝わってきます。

平成28年度部活動大会成績 (県大会以上を掲載)

●男子テニス部

◇県テニス協会会長杯

1年シングルス 3位 福永藍斗

◇県高校新人大会

ダブルス ベスト16

●女子テニス部

◇サマージュニアテニス大会

1年シングルス 3位 牧田華奈

◇県高校新人大会(テニス競技) 団体ベスト8

◇県テニス協会会長杯

1年シングルス 1位 牧田華奈

◇県高校樋口杯テニストーナメント大会

1年シングルス 1位 牧田華奈

●なぎなた部

◇県高校総体 なぎなた競技

団体試合の部 1位

個人試合の部 1位 田口真耶

2位 上村悠衣 3位 丸野麗那

演技競技の部 1位 田口真耶・上村悠衣

2位 丸野麗那・盛田亜紀

◇全国高校総体 なぎなた競技

個人試合の部 5位 田口真耶

ベスト16 上村悠衣

◇県なぎなた選手権大会

試合競技の部 優勝 田口真耶

2位 上村悠衣 3位 丸野麗那

演技競技の部 最優秀 田口真耶・上村悠衣

優 秀 丸野麗那・盛田亜紀

◇県高校新人体育大会 なぎなた競技

団体試合の部 1位

個人競技の部 1位 丸野麗那

2位 盛田亜紀 3位 柳田美結

演技競技の部 1位 丸野麗那・盛田亜紀

2位 柳田美結・當房夢佳

◇平成28年度 いきいき教育活動表彰

●女子バレーボール部

◇全九州総合選手権県予選 ベスト16

◇県高校総体 ベスト16

●水泳部

◇県高校春季水泳大会

200m背泳ぎ 5位 赤木太志朗

200m平泳ぎ 6位 下久保佑哉

◇県高校総体 水泳競技

100m平泳ぎ 8位 下久保佑哉

200m平泳ぎ 6位 下久保佑哉

◇県高校新人大会 水泳競技

200m背泳ぎ 8位 赤木太志朗

100m平泳ぎ 8位 下久保佑哉

200m平泳ぎ 5位 下久保佑哉

◇九州高校総体 水泳競技

100m平泳ぎ・200m平泳ぎ出場 下久保佑哉

◇九州高校新人大会 水泳競技

200m背泳ぎ・400mメドレーリレー出場

赤木太志朗

400mメドレーリレー出場 桑原幸生

100m平泳ぎ・200m平泳ぎ・400mメドレーリレー

出場 下久保佑哉

100mバタフライ・400mメドレーリレー出場

温井友大

●柔道部

◇県高校新人体育大会 柔道競技

個人81kg級 3位 上原大平

◇県下高校柔道選手権大会

個人81kg級 3位 上原大平

●音楽部

◇県吹奏楽コンクール 銀賞

◇県高校音楽コンクール

金管楽器部門 銀賞 小原果林

◇鹿児島国際音楽コンクール

管弦打楽器部門 3位 小原果林

◇県吹奏楽ソロコンテスト

チューバ 銀賞 永野美紗

ユーフォニアム 銀賞 小原果林

●書道部

◇高円宮杯日本武道館書写書道大展览会毛筆の部

日本武道館賞 小山美紅 轟木さくら

大会奨励賞 中村璃奈 蔵元遥 黒瀬菜生

●美術部

◇県高校美術展

奨励賞(洋画部門) 米田百花 五反田実果

●E S S部

◇崇城イングリッシュチャレンジ2016

シルク特別賞 井手悠哉・國崎史人

●その他

◇第5回 ~家族を歌う~河野裕子短歌賞

青春の歌部門 入選 白澤希

◇第59回県児童生徒作文コンクール

特選 萩原千聖 入選 鎌田実里

地元、川辺の名酒から県内ブランド酒まで多数取揃えております。御注文いただければ、即、発送致します。



名水百選の街川辺

南薩摩の銘酒専門

(有)蔵元商店

鹿児島県南九州市

川辺町野崎2579-2

TEL (0993)56-4566

FAX (0993)56-3939

本格焼酎 さつま **寿**

(株)尾込商店

代表取締役 尾込 宜希

〒897-0215

鹿児島県南九州市川辺町平山6855-1

電話 0993-56-0075

Fax 0993-56-0596



本格焼酎 八幡

高良酒造(有)

代表取締役 高良 武信

〒897-0214

鹿児島県南九州市川辺町宮4340

電話 0993-56-0181

Fax 0993-56-0585

お酒は20歳になってから

手づくりの技

ひとつひとつ真心込めて...



仏壇の 瑞光堂

代表取締役 原口 和秋

鹿児島県南九州市川辺町平山6842番地
(鹿児島銀行川辺支店前)

電話0993-56-1107

URL <http://www.zuikoudou.com/>

Fax 0993-56-4568

E-Mail info@zuikoudou.com

鹿児島特産

さつまあくまき

さつまあくまき本舗

有限会社 梅 木

代表取締役会長 大久保 久通

代表取締役社長 梅木 康博

本社工場

鹿児島県南九州市川辺町平山6794

TEL(0993)56-0126(代)

FAX(0993)56-1184

☆お客様の繁栄に
貢献いたします☆

五反田印刷

鹿児島県南九州市川辺町平山6997-1

(鹿児島相互信用金庫川辺支店ヨコ)

TEL(0993) 56-0078

FAX(0993) 56-3417

★今、話題のミスト美容

“YOSA(ヨサ)”を始めました!

ご予約は、お電話にてお願い致します。

YOSA PARK ベリー
TEL(0993)56-0078



株式会社 加覧組

代表取締役 新谷 昭彦
(S59年卒)

〒897-0213

鹿児島県南九州市川辺町小野1184

TEL 0993-56-0321

FAX 0993-56-2173

森田建設(株)

本部同窓会 森田 剛(S43卒)
副 会 長

川辺町上山田4330

TEL.0993-57-3321

FAX.0993-57-3323

川辺町
高田郵便局

本部同窓会 高田 政雄 (S48卒)
副 会 長

川辺町高田355

TEL.0993-56-1525

JXエネルギー株式会社特約店
三井住友海上火災保険株式会社代理店

株式会社 前野石油
株式会社 前野設備

代表取締役会長 前野 政美
代表取締役社長 前野 耕作

■石油事業部 ■ガス事業部

■車販・太陽光事業部

■住宅関連事業部 ■損害総合保険事業部

■車検事業部 車検・板金センター

(国土交通省運輸局指定工場 指定番号 鹿-885)

本社 〒897-0211 鹿児島県南九州市川辺町両添1026

TEL0993-56-1336(代) FAX0993-56-3983

健康維持のために!!

核酸ドリンク
水素水生成器

・水素(H)が抜けない
ナノバブル活性水素水
・科学的根拠・世界特許10ヶ国取得

オゾン発生器

シャインライフ社

代表 大坪 憲市



医療法人 菊野会

整形外科・神経内科・消化器内科
リハビリテーション科・リウマチ科
介護老人保健施設
かわなべ 寿光苑
川辺訪問介護ステーション小菊
介護支援 センター
療育センターあおぞら
理事長 菊野 竜一
会 長 菊野 光一郎
南九州市川辺町平山三八一五
電話(五六)一一三五

南谷綜合法律事務所

弁 護 士 南 谷 知 成 (昭和36年卒)
 弁 護 士 南 谷 敦 子 (長女)
 弁 護 士 南 谷 博 子 (三女)
 パラリーガル 西 真由子 (平成17年卒)

南谷朝子公認会計士事務所

公認会計士 南 谷 朝 子 (二女)
 〒810-0041
 福岡県福岡市中央区大名1丁目8-10
 福岡安藤ハザビル5F
 TEL : 092-724-1113
<http://minamitani-law.jp/>

関東さつま川辺会

第28回総会は、平成30年3月11日(日)
 12:00よりホテルメトロポリタンエド
 モント(千代田区飯田橋)で開催致しま
 ず。川辺出身の方に限らず、ご縁のあ
 る方々のご参加をお待ちしております。

会長 川 野 博 一
 (川辺高昭和37年卒)

連絡先 〒181-0005 三鷹市中原3-8-30
 事務局長 吉 留 浩 一 (0422-26-7065)

みなみにひろたか

南谷洋至法律事務所

弁 護 士 南 谷 洋 至
 (昭和49年卒)
 金峰町白川・阿多中出身

世界一の人生応援団長を目指しています。
 いつのときも、神戈陵魂が、心の支えです。

〒810-0041 福岡市中央区大名一丁目8番12号
 第二西部ビル3階・南谷洋至法律事務所
 TEL 092-736-1531 FAX 092-736-1533
 (川辺高校福岡同窓会事務局)

シモ動物病院

院長 霜 出 幸 七
 (41年卒)

愛犬・愛猫の病気の予防
 治療に、ご利用ください。

〒891-0113
 鹿児島市東谷山3-36-11
 電話 099-267-5959

ミネ・アニマルヘルス

獣医師 峯 苦 稔 三
 (41年卒)

家畜の病気を予防し、安心・
 安全な畜産物の生産に取り
 組んでいます。

〒300-1622
 茨城県利根町布川454-180
 電話 : 090-2440-7109

伸びる芽に
 水を 光を よき土を

社会福祉法人 緑が丘福祉会 緑が丘保育園 こぼとこども園

理事長 室 屋 徹 (37年卒)
 園 長 室 屋 正 枝 (41年卒)

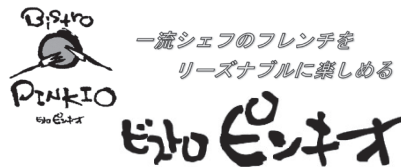
〒897-0215
 鹿児島県南九州市川辺町平山2522番地
 TEL 0993-56-1505 FAX 0993-56-1736

先輩、後輩のみなさん高田馬場の

郷土料理+「薩摩の里」にぜひ

おじゃったもんせ!!

新宿区高田馬場4-18-10-2F
 TEL 03(3363)3258 FAX 03(3350)1483
 予約 40名様可能 営業時間 午後5時より午前1時まで
 定休日 第1・第3日曜日 高田馬場駅徒歩5分
 店主 山下由人(知覧出身、S48年卒)

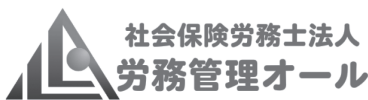


オーナーシェフ 小 椋 清 明
 経 理 担 当 小 椋 み つ 子
 (旧姓 小原 41年卒)

川越市脇田町17-33
 Tel/Fax 049-226-4567
<http://homepage3.nifty.com/pinkio/>
 東武東上線川越駅東口より2分

会員の皆様のご健勝を お祈り申し上げます。

前会長 (昭34年) 大平政弘
 〒247-0025 横浜市栄区上之町 47-16
 電話 : 045-891-0197



代表社員 社会保険労務士 岡 清 司

社会保険労務士 有 村 公 美 子
 (平成6年卒)

☎160-0017
 東京都新宿区左門町20-6 内藤ビル1階
 電話 03(3353)7755/FAX:03(3353)0264

相続に関するご相談!

・親子、兄弟姉妹で
 円満相続

ライフプランナー
 ファイナンシャル・プランナー(日本FP協会会員)

内村 哲也

(昭和50年卒)

東京都品川区大崎 1-11-1
 ゲートシティ大崎ウエストタワー
 ブルデンシャル生命保険株式会社
 首都圏第1支社
 TEL: 03-6675-9837
 携帯: 090-4962-1820

コバルト プランニング

より良い未来の創造に
 向けて、夢をかなえる
 手助けをいたします

ストラテジスト

小原 東洋明

(昭和38年卒)

応援ありがとうございました。

♪ばくら離れ離れになろうとも
クラス仲間はいつまでも♪

NHKのど自慢出場者 (46年卒)

本誌11頁掲載写真左から

塗木 実雄 (中央中)

小原 真理 (川辺中)

馬渡武弘先生

床並 一矢 (川辺中)

小藺 義文 (川辺中)

瀬戸 恵 (万世中)

深田 安秋 (知覧中)

峯元 政公 (川辺中)

外藺 (林川) 千代子 (中央中)

武田 健志 (中央中)

平素は東京同窓会に格別な
ご高配を賜り御礼申し上げます。

「行ってみたい同窓会」

「行ってよかった同窓会」

作りを目指して努力して参ります。

川辺高等学校東京同窓会

会長 小原 東洋明

知的創造

源泉混混として、
昼夜を舍かず。
科に溢ちて
面る後に進み、
四海に放る。
(五十音 難字下より)

小社は学校の教材や書籍、チラシなど印刷物全般を専門に、千代田区で創業50年、本作りの専門会社です。自社で入力から製本まで一括で出来るからこそ、安価でご提供させて頂いております。

企画編集から製本まで 自費出版大歓迎!! カラー名刺・絵ハガキ・封筒・ポスター・横断幕 小部数でも安価でできます ご相談下さい

Eishin 株式会社 盈進社

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋2-3-2 三信ビル

TEL 03-3262-3471代 FAX 03-5210-7226

EXメール: info@eishinsya.co.jp

昭和40年卒業の皆様へ

人生七十古来稀

という年齢を迎えました

人生今が一番若い!

(永六輔)

残りの人生の出発点です

さあ 大きな夢を描こう!

昭和40年卒有志

私たちは
来年度総会懇親会の
年度幹事です

10年に一度の大役です
皆様のご協力をお願いします

第42回総会懇親会

平成30年6月2日(土)

9:00 ~ 15:00

ワシントンホテルにて



第41回総会懇親会

JA 鹿児島県経済連直営店 鹿児島華蓮銀座店

南国鹿児島で育てられた鹿児島黒牛・鹿児島黒豚・黒さつま鶏・旬の野菜など
確かな食材でおもてなし致します。

東京都中央区銀座 8-8-8 銀座 888 ビル 9F TEL 03-3572-3153

【営】 ☎11:30~14:00 ☎17:30~22:30

【休】 毎月第3日曜日 (連休の場合は最終日)

鹿児島華蓮

KAGOSHIMA KAREN

鹿児島黒牛・黒豚

鉄板焼・せいろ蒸し・しゃぶしゃぶ

銀座店

GINZA

「川辺高校東京同窓会存亡の危機!!」

過去5年間平成年度卒業生の出席が異常に少ない、
これでは途々に会がしぼんでしまうと思います。よ
って、平成年度卒業生との交流を行ない、少しでも
会員を増やしこの同窓会がすたれるのをふせぐ為に
今から準備して行きましょう。

昭和45年卒有志名付けて「アクティ45」



昭和45年卒

われら神戈陵同窓生



昭和20,23,25,29,30年卒



昭和27,28年卒



昭和32年卒



昭和33年卒



昭和34年卒



昭和35年卒



昭和36,37年卒



昭和38年卒

われら神戈陵同窓生



昭和40,43年卒



昭和41年卒



昭和44,46,47年卒



昭和45年卒



昭和48,50年卒



昭和49年卒 (年度幹事)、南谷特別講演講師



昭和51,52年卒



昭和53,54年卒

われら神戈陵同窓生



昭和57年～平成年度卒



朝早くから準備作業中の年度幹事、役員



大盛況の特別講演



下園教諭のミニコンサート



新会長あいさつ、新役員紹介



大平前会長、南谷前副会長、ご苦労様でした



楽しく輪になって踊る同窓生



校歌斉唱

事務局からのお知らせ

第四十二回総会の報告

六月三日新宿ワシントンホテルで開催された総会において、会務報告(別表参照)、会計報告(別表参照)がありました承されました。また今期は役員改選の年にあたり、別表の通り総勢八十二名の新役員が選任されました。会則には、百名の役員を置くとしており、二十名ほどの欠員となつております。ご協力頂ける方はお申し出ください。いつも楽しい役員会です。

新規会員の発掘

現在、会員総数は凡そ千五十名、毎年二十名ほど減少しています。このまま推移すれば、数年の内に一千名を割り込みます。

さらに、これからの五年間に八歳を迎える昭和三十一年から三十五年卒の皆さんは全体の十八%を占めており、次の数年で総会懇親会出席者の減少が懸念されます。一方、昭和五十年卒以降四十年間の会員数は全体の十三%に過ぎません。この年代の会員を如何にして発掘していくかが問われています。

平成28年度川辺高等学校東京同窓会会務報告

Table with columns: 年月日, 会務, 備考1. Contains a list of activities and dates from 2016 to 2017.

平成28年度 川辺高等学校東京同窓会 会計報告

自: 平成 28 年 4 月 1日
至: 平成 29 年 3 月 31日

Accounting report table with columns: 収入の部, 金額, 支出の部, 金額. Shows income and expenses for the fiscal year.

出席者総数 195 名

内訳(会員男性 103 名、会員女性 71 名、学生 3 名、会員外 5 名、来賓者 13 名)

上記の件、監査の結果相違ありません。

平成 29 年 5 月 27 日

会計監事 森山昭利
" 菊永道昭

東京同窓会は会員の皆様から納入頂いた年会費(年間一〇〇〇円)で運営されています。主に、総会案内状送付の通信費、会報誌作成費用に充てられます。したがって、年会費の納入が少なくと運営に支障をきたすこととなります。年会費は、総会案内状送付時に振込用紙を同封し納入をお願いしていますが、会報誌発行時点で年会費納入の確認が出来ていない方については、振込用紙を再発行させて頂きました。是非とも年会費の納入にご協力くださいますようお願い申し上げます。

年会費納入のお願い

第41期~第42期 役員

Table listing officers (役員) for periods 41 and 42, including names, titles, and graduation years.

第41期~第42期 評議員

Table listing council members (評議員) for periods 41 and 42, including names and graduation years.

*** コミュニケーション しましょう! ***

同窓会の様子や母校の様子を知ることができます。
どうぞ、お気軽に覗いてください!

川辺高校東京同窓会ホームページ : <http://www.kawanabe-hs-tokyo.com/>

東京同窓会の総会などイベントの様子を記録に残します!



総会の写真がたくさん載っています!

QRコード



フェイスブック: ページ名 川辺高校 東京同窓会 FB コミュニティ



お気軽に入力を!

QRコード



川辺高校ホームページ: <http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/kawanabe/>

川辺高校公式ブログ : <http://kawanabe.edu.pref.kagoshima.jp/>

写真もたくさんあり、生徒の生き生きした姿を見ることができます。

QRコード



母校への貢献

私たち卒業生は母校の活躍に勇気と活力を頂いています。同時に、母校の生徒さんたちは私たち卒業生の活躍に希望と勇気を貰っていると思います。母校と私たち卒業生は相互依存関係にあり、母校が活性化すれば、私たち卒業生も元気になります。母校の発展を願わずにはいられません。

東京同窓会の目的は「会員相互の親睦を図り、母校の発展に寄与する」と会則に定められています。母校から遠く離れた東京同窓会に

できる事は限られてきますが、不十分ながらも、経済的支援をもって母校の発展に寄与したいと考え、第四十一回総会に於いて、二十万円の寄付をさせて頂きました。

ふるさと納税で母校支援を

南九州市ではふるさと納税の使途に「高校の為に必要と認める事業」を設けました。この使途を選択し(川辺高校と記入)、ふるさと納税すると、川辺高校の申請する事業に使われます。間接的に母校を支援することになります。

もちろん、ふるさと納税の税額控

ふるさと納税のお申込み方法

お電話・FAXで

南九州市役所ふるさと振興室
〒897-0392 南九州市知覧町郡6204番地
TEL: 0993-83-2511 FAX: 0993-83-4469

インターネットで

南九州市役所ホームページで検索ください
ホームページのふるさと納税を選択
ふるさとチョイスから申し込みます
南九州市を選択してください

第42回総会・懇親会のご案内

来年度の総会懇親会のご案内です

- (1) 日時：平成30年6月2日(土)
- (2) 場所：新宿ワシントンホテル

趣向を凝らし、お待ち申し上げます
卒業年度末尾0の付く年度の皆さん
年度幹事です ご協力お願いします

特別講演の予告

第42回総会特別講演のご案内です

時間 11:00 ~ 11:45

テーマ「西郷を育てた名君 島津斉彬」

講師 日本歴史文化研究所 教授
松村 秀明 (昭和46年卒)

平成30年NHK大河ドラマは「西郷どん」
最下層の藩士西郷を選抜した斉彬の
深謀遠慮を分かり易くお話しします



南九州市ふるさと納税
返礼品リストから
霧若緑とティーバッグセット
1万円の納税から
貰えます

除、返礼品も受け取れます。一挙三得です、ご協力ください。
ちなみに一萬円の納税で、鶏肉・黒豚肉・和牛肉のほか、餃子などの返礼品が貰えます。もちろん、知覧茶も貰えますので、上記枠のふるさと納税のお申込み方法に沿ってお申し込みください。

編集後記

事務局長 中原信寛
(昭和五二年卒)

大雨と猛暑が続く
時として地震もある
気になるのは故郷のことだ
自分が住んでいる場所ではない
電話すると何も心配ないと言う
古びた家と年老いた親だけど
心配されるのは電話をかけた方だ
親は親のまま変わろうとせず
子は子のままが親孝行なのか
故郷にやり残したことを忘れず
この地で親の思いに込えているか
大したことは出来なくても
同窓会に集まることは出来る
ビールではなく焼酎で乾杯だ
次回は来年六月二日(土)
新宿ワシントンホテルです
さあ、おはら節を踊ろう
忘れかけている鹿児島弁で
忘れないように故郷の話をしよう
変わらぬ故郷は東京にもあります

編集者…
小原 森山 松永 橋本 椎原
菊永 内村 中原 林 田中
有村 鳥海 佐藤 原口 蔵元
峯 苦



上野のせごどん